

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 菊陵 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

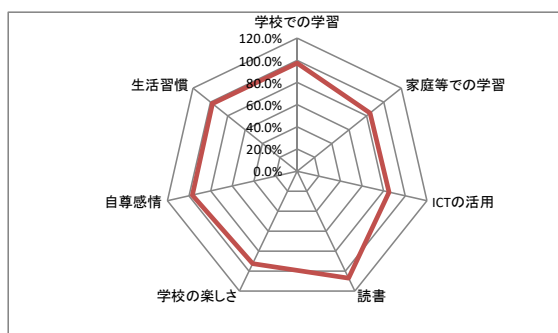
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	思考力を問う記述式の問題の正答率が全国平均正答率より下回っている。特に「話すこと・聞くこと」の領域において課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	情報の扱い方に関する事項。自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書く。	
	努力が必要な問題	言葉の特徴や使い方に関する事項。自分の考えが伝わるように表現を工夫して話す。	
数学	全体的な傾向や特徴など	用語の意味や計算方法等の習得が必要な基礎的な問題の正答率が全国平均正答率より下回っている。特に「数と式」「図形」の領域において課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	データの活用。自然数を素数の積で表す。	
	努力が必要な問題	数と式(連立方程式を解く)	
理科	全体的な傾向や特徴など	思考力を問う短答式の正答率が全国平均正答率より下回っている。特に「粒子」を柱とする領域において課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	観測した気圧と天気図の気圧に関する事項。気圧の概念を空気の柱で説明する。	
	努力が必要な問題	分子のモデルで表した図に関する事項。粒子の保存性の視点から分析して解釈する。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・1日当たりの読書量が全国の結果を上回るなど、読書好きな生徒が多い。理由の一つとして、ボランティアの方による週一度の読み聞かせの成果が考えられる。 ・授業では、自分の思いや考えをもとに新しいものを創り出したり、自分の考えをまとめたりする活動がよく行われているが、ICT機器の活用が全国の結果を下回っているため、今後は学校生活全般においてより積極的に活用していく必要がある。 ・将来の夢や希望をもっている生徒は全国の結果とほぼ同じであるが、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている生徒が少ないので、学校での学びが社会につながっていることを教師自身が意識し、授業や学校行事を通して、子どもたちに考えさせていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 各教科において、ICT機器を目標達成のための手立てとして積極的に活用する。
- 総合的な学習の時間を核として、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができるカリキュラムを編成する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 知識・技能の習得のために、ドリルアプリを活用した家庭学習に取り組む。
- 家庭学習の習慣を構築するために、自学ノートの取組を継続するが、授業と自学ノートをつなげる工夫を行っていく。